

50周年記念式典式辞

本年、兵庫県立舞子高等学校は創立50周年の記念すべき年を迎えることができました。舞子高校をご支援いただいた国会、県会議員の皆様、加えて県校長会、歴代校長の皆様のご列席のもと、かくも盛大に記念式典を挙行できますことは誠に喜ばしいことであり、学校を代表しましてお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、本校は昭和49年4月に旧神戸第3学区4番目の全日制普通科高校として設立されました。折からのオイルショックにより校舎の完成が遅れ、隣接する神戸市立多聞東中学校の校舎をお借りして授業をスタートさせ、昭和55年によろやく学校全容が整うという苦難のスタートでした。しかしながら部活動においては女子バレー部やウエイトリフティング部においてオリンピック選手を輩出するなどめざましい活躍を遂げ、非常に活気のある学校として位置づけられてきました。平成7年に起こった阪神・淡路大震災で避難所となったことから防災に特化した学科の開設に動き、平成14年4月に日本で初めて環境防災科を設置し、防災教育の発信に努めて参りました。令和3年度に学科設立20年となり、令和6年度には阪神・淡路大震災から30年を迎える兵庫県の防災教育の中心的な存在としての本校の取組を前進すべく、日々努力しているところでございます。さらに平成23年には先進理工類型を設置し、理系に関心を持つ生徒の発展的な取組を進めていけるようにしました。この間、校舎をお借りした神戸市立多聞東中学校をはじめとします神戸市の関係者だけでなく、本校を取り囲む住宅にお住まいの地域の皆様のご協力、また、防災教育の拠点としての本校をご支援いただいています兵庫県教育委員会の方々、そして本校を身近なところで支えていただいていますPTA並びに同窓会の皆様には日頃からのご理解とご協力に改めて感謝を申し上げます。さらに、本校創立以来脈々と本校教育を支えてこられた旧職員の方々をはじめとします職員の皆様には、50周年を迎えられた喜びを共有させていただきながら次なる一步を踏み出すための舞子高校の発展にご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和の時代を迎え、新型コロナウイルスの蔓延に伴い今まで経験したことない感染症対策を強いられ、制限のかかる学校生活を経て、私たちが得たものは何だったのでしょうか。ICT化が一気に進み、一人一台端末を持ち、メールでのやりとりが主流となりました。相手の顔を見て話をする機会が減ったことで、気持ちや意思の伝達が文字となり、言葉が一人歩きをしかねない難しい時代になりました。また、「当たり前の生活」が当たり前でなくなり、制限をかけざるを得ない状況は苦しいものでした。しかしながらそのような生活の中で多くの人ができること、させていただけることに感謝の気持ちを持つようになったのではないかと思います。今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかつ

た、周りの協力のおかげでできていたことに気付いたことでしょう。また成年年齢引き下げにより、高校3年生の途中で成年になるという難しい舵取りを高校時代にしなければならなくなりました。このような社会の変化とともに私たち自身が考えなければならないこと、進めていかねばならないことなどよりよい生活を送るために必要なことは、一人一人がしっかりとしたビジョンを持ち、責任ある行動がとれるよう、自らの学びを進めていくことだと思います。舞子高校の「ワンランク上の自分磨き」というキャッチフレーズにあるように自らを知り、自分のレベルアップを図ろうとする姿勢を持ち続ける生徒の育成をしていくことが舞子高校の使命と感じ、今後の学校教育を進めて参りたいと考えています。

最後になりましたが、本日お越しいただきました皆様の今後ますますのご発展とご健勝を祈念いたしますとともに舞子高校の今後の発展へのご協力をお願い申し上げます。

令和5年11月18日

兵庫県立舞子高等学校 校長 若浦直樹